

バグダッド日誌(1月11日)

○ 嵐を呼ぶ訪問者？

- ・ 8師団長がバグダッドを訪問された。訪問予定日の数日前から悪天候が続き、基地内はどこもドロドロになってしまった。そもそも雨対策など考えていないような場所だけに仕方がないが、部屋の清掃などは手のつけようがない状態になった。師団長は意に介する様子もなく、ここでの二日間を過ごされた。
- ・ 今回の訪問では、航空自衛隊機、英軍機、米陸海軍機を10～15分の時間間隔で乗り継ぎ、IZでの表敬訪問も計画した。ところが、悪天候のため、初日のIZ行きのヘリが飛べなくなった。中将2名、少将1名、准将2名と将官5名の他、大佐3名との懇談を予定5時間の中に詰め込んだ時間計画が最初からろくも崩れた。
- ・ 師団長が表敬・懇談される際は同席させていただき、次の訪問への移動間や待ち時間に米軍担当と調整し、師団長に指導を仰いだ。訪問前から予想した通り「胃の痛くなる」調整を繰り返した。米軍担当者も目を白黒させながら対応してくれた。
- ・ なんとか師団長のご希望に添った形で計画を修正し、安心した翌朝のこと、豪州司令官と懇談を終え、(さあ次はヘリでIZへ移動だ)と思いつつ豪州司令部から出るなり、エスコート担当将校(米陸軍大尉)が「また悪天候のためヘリが飛べないようです。」と言ってきた。「エッ?!!」と言ったのは私だけでなかった。
- ・ 善後策を米軍大尉と相談すること約5分、「チョット失礼・・・」と彼は無線交信(骨伝導無線機を装着している)を始めた。(何とかしたいなあ)と思っていると「ヘリが飛べるそうです。IZへ行けます。」と言った。まさに「救いの一言」だった。師団長も「念ずれば通ずだよ」と安心されたようだった。
- ・ 私が空挺にいた時、若い頃の8師団長の噂を聞いたことがある。あだ名は「嵐を呼ぶ男」だったそうである。詳しくは述べないが、まさに・・・と言う感じである。今回の訪問も……
- ・ 今回の訪問には、多くの米兵が支援してくれた。空き時間に関係者と調整して師団長に報告しようとする、いつも将校・下士官・男女の別なく米兵達が師団長を囲み、楽しそうに話している。わずかな時間の内に彼らは感化を受け、多くの米兵が「すばらしい將軍ですね。」と私に言ってきた。
- ・ IZでは元在日豪州武官だった[]が、「是非会いたい」と忙しい中、勤務時間を自ら割いて、MNF-I副司令官の執務室の前で待っていてくれた。エスコート将校に「10分だけ」と断って、懇談していただいた。米兵にしても[]にしても、今回初めて会った豪州司令官やコアリション作戦部長、コアリション事務所を少し覗いた際、わずかに言葉交わした各国LOも皆、「すばらしい將軍ですね」という。師団長の人徳・威徳を見る思いがした。
- ・ 統幕3室長当時、毎日のように嵐のような指導をいただき、どんなに働いても言われたことの無かった一言を今回の訪問の最後に師団長からいただいた。「バグダッドLOの諸官ありがとう」とてもうれしかった。



バスラLO日々業務報告(1月11日1900)

区 分	内 容
1 警戒態勢	バスラ空港 [] [] (警戒態勢) : []
2 特記事項	(1) [] (2) []
3 本日の業務	(1) 情報要求対応 SSR (ISFの戦力化の状況)、MND(SE)の将来計画、IED及びIDF関連情報、デモ関連情報等 (2) 定例情報収集 : [] (3) 定例会議への出席 : 司令部朝会議・夕会議、J2・J3・J9認識統一会議 (4) 空路輸送調整
4 明日の予定	(1) 情報要求対応、定例情報収集 (2) 定例会議への出席 (3) 空路輸送調整
5 その他(備考)	